

呉天ごてん (1719~1797)

俳人。庄屋。宇摩郡土居村(現、四国中央市)を中心に活動した人。本名は加地武兵衛命盛。25歳の時、願主となって奉納した『式百歌仙表合』には、讃岐・阿波・大坂付近など伊予国以外の俳人が多く含まれ、呉天の交遊範囲の広さを示し、若くして才能を発揮していた。『一席一人百句放言』、『放言十百韻』などの作品を残しており、連句の中心作家として、土居連衆をよくもり立て、入野の関卜らとともに点取俳諧てんとりはいかいの流行をもたらした。

略歴

享保4(1719)年	出生
寛保3(1743)年	『式百歌仙表合』を土居神社に奉納
明和2(1765)年	浦川富天 <small>うらかわふてん</small> 、伊予に来遊の際、呉天を訪ねる。
寛政9(1797)年	79歳で永眠

〈関連図書〉

・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』 愛媛県 1984年
〈ゆかりのある場所〉…(P299, 141)